

令和5年度 第2回瀬戸市子ども・子育て会議 議事録

日時：令和5年10月13日（金）
午後2時00分～3時30分
場所：瀬戸市役所 北庁舎5階
全員協議会室
委員：参加者10名、欠席者2名

委員半数以上出席で会議成立

< 1. 副市長あいさつ >

本市では子どもの最善の利益のために全ての子ども若者に対して、切れ目なく必要な支援を行うために、瀬戸市子ども総合計画を令和2年に策定しております。中でも4つの重要事業をこれまで着実に推進してまいりました。国においても、あらゆる政策を今考えているところで、こども家庭庁を設置いたしまして、本年4月にはこども基本法が制定されると、子どもの施策に積極的に取り組んでいるところでございます。本市においても国の流れを注視しながら子どもの最善の利益の実現を目指すために、これまで取り組んできた子ども施策をさらに充実していく心がけでございます。

令和7年3月で瀬戸市子ども総合計画を改定する時期が来るということでございます。本日のメインテーマは改定に合わせてアンケートをとるところでございます。そのアンケート内容を充実させるために皆様方からの忌憚のないご意見を今日はお聞きをしたいというふうで考えております。専門家の見地から、我々の知らないところをご指導いただければ幸いかと存じます。

本日はよろしく願いいたします。

新委員紹介

< 2. 協議事項 >

【瀬戸市子ども総合計画改定アンケート調査項目（たたき台）について】

事務局より、アンケート調査の考え方及び小学校5年生中学校2年生のアンケート項目（たたき台）について説明

《委員からの意見》

(委員意見①)

項目5番「ヤングケアラーという言葉を知っているか」に関連して項目4番が「週1回以上、家でお手伝いをするか」という項目であり、これは前回入っていたということだが、前回はヤングケアラーを意識した項目ではなかったのではないかと思うので、これをヤングケアラーに使うという意図があるのであれば、家事やお家の人の世話などで忙しくて勉強する時間がないとか、疲れているとか、そういう項目を入れて、ヤングケアラーの中身の状態を把握した方が良くはないかというふうに思った。

(市回答①)

ヤングケアラーのことについて、私どもの現状だが、子ども・若者センターの方にヤングケアラーという形で相談が来ているというのはないが、ただ、他の虐待とかご相談の中で色々聞いてみると、ヤングケアラーに該当してくるのではないかというようなこともある。ヤングケアラーという言葉自体、子ども若者たちも知っているのかというところはまずきちんと押さえた上で、内容については愛知県が行ったアンケート項目を活用して、こちらの変更を考えていきたいと思っている。

(委員意見②)

ヤングケアラーの質問だが、カテゴリーの場所を検討されたらどうかと思った。要はこのまま項目4番5番で繋がると、お家でのお手伝いもヤングケアラーとすごく密接で考えてしまって、家でのお手伝いがいけないのかというような解釈をする人がもしかしているのではないかと思った。

(市回答②)

そちらの方を参考にさせていただいて、場所を工夫して、もうちょっと答えやすいような形でやれるようにしていく。

(委員意見③)

前回のアンケートの中で、保護者が子どもの頃に増えて感じる子どもというところで、外遊びをしない子どもというのが一番大きく突出していたが、実際に外で体験する機会が非常に減っている。小学校5年生中学校2年生にそういった活動をされているかどうかというのをお尋ねするのはいかがか。

(市回答③)

項目21番「放課後にほっとできる場所はどこか」で、その場所として、例えば自然の中であつたりとか、外で遊ぶとか、そういう項目を入れて、実際子どもたちがどういう意識でいるのだろうというところを聞いてみたいというふうに考えていた。一番重要なのは、子ど

もたちが自然を体験するとか、外で遊ぶとかということをも自分の中の居心地のいい場所であって、機会であるというふうに捉えているかどうかというのを確認することだと考えている。

(委員意見④)

項目6番「地域の活動や行事に参加したことはあるか」というところだが、コロナ禍でほとんどの地域の活動行事が中止になってしまったということがあって、ここの質問項目に答えるのが難しい。今おそらく地域の活動行事がかなり瀬戸市内で減ってきているのではないかと思う。なので、過去どのあたりまでさかのぼって「参加したことがある」と答えていいものなのか。

(市回答④)

おっしゃる通りだと思う。こちらの質問については子どもたちが地域とどう関わるのか、関わっていく機会があるかというところが一番聞きたいところだと思うので、確認の仕方、問いかけの方法を考えて、答えやすいようにしていきたいと思う。

(委員意見⑤)

項目3番「ご飯は誰と食べるか」というところは実際どういう質問になるのか。いつとか、土日なのか平日なのかとかで相当に変わってくるのだろうなというふうには思うので、その聞き方を工夫していただく必要があるのかというふうに思った。

(市回答⑤)

こちらについて何を確認したいのかということについては、ご家族の中で楽しく過ごしているかどうかというところなので、聞き方を整理させていただきたいと思う。

事務局より、17歳および19歳から29歳アンケート項目（たたき台）について説明

《委員からの意見》

(委員意見①)

項目23番「子育てについての考え方」を聞いて、例えば、男女の性別役割意識が強ければそこを学校教育なり社会教育なりで教育をするというふうに行くのか。ただ、男女共同参画の方の政府の調査でもここはやられていて、20代であれば性別役割分業意識を肯定する人というのは2割ぐらいなので、それと比較して何か出てくるのか。「男女あるいは夫婦で協力して子育てをするためには何が必要だと思いますか」というふうな質問が前回があったみたいだが、それは今回もあるのか。協力して子育てするために必要なものは何かとい

うところで、家庭から社会まで含めての必要なものを聞く方が政策には結びつきやすいのではないかと思うがいかがか。

(市回答①)

ここで聞きたいことというのが、今までだとお母さんだけが子育てをしていたりとかして非常に辛い思いをされているが、みんなで子育てみたいなのを考えられるといいよねというのが一つあった。今ご指摘いただいたような内容で一度再考させていただきたいなと思っている。

(委員意見②)

基本的にはアンケートはいたずらに項目を増やしたりとかしてはいけないとは思っているが、今の子どもたち若い子たちを見ていると、趣味がびっくりするほどない。「率先して自分で何かに取り組んで、一生懸命やっているか」ということを尋ねてみてはどうかと思う。

(市回答②)

他の項目とかも精査した中で整理して加えていきたいと思っている。

(委員意見③)

項目「結婚」のところだが、17歳のアンケートの取り方と19歳のアンケートとちょっと記載の仕方が違っており、「結婚するかしないか」ということと「子どもを産み、育てたいか」ということはまた別次元の話なのかと思うので、17歳のアンケートにも「子どもを産み、育てたいか」という項目を入れていただいた方が、結婚しないけど子どもを産み育てたいという選択肢もあるかと思うので、聞かれるといいのかというふうに思った。

(市回答③)

ご指摘ごもっともと思っている。考えて、修正する。

(委員意見④)

19歳から29歳のアンケートに関しては、独身者と既婚者ではずいぶん回答が違ってくるようなことが予想できるが、そこは項目C「同居している家族」というところで判別可能なのか。

(市回答④)

その通りである。

(委員意見⑤)

インターネットに関して、スマホやゲームの使用時間、スマホ等の利用目的が19歳から29歳のアンケートでは削られているが、これは意識的に削ったのか。今大人でもゲームにはまっている人はいっぱいいるが。

(市回答⑤)

今いただいたご意見をもとに検討させていただきたいと思う。

(委員意見⑥)

17歳の項目25番「大切な子どもの権利は何か」と19歳以上の項目15番「意識している子どもの権利」は、回答の様式はどんなふうな形になるのか。

(市回答⑥)

子どもたちにとって一番重要な権利って何だろうというところを選択してもらおうというようなものになる。小学校5年生、中学校2年生については、「大切な権利って何だろう」というところについて最も大切な権利として三つ選んでもらう。17歳については、実際経験をした中で「大切だったな」と思うものを選んでもらう。19歳から29歳については、まさに子ども時代を過ぎて大人になって、今までの経験の中で「こういうのは守られていると一番いいよね」というような権利って何だろう」というところを選択していただくと思っている。そこから何を導き出すのかというところについては、子どもの考えているものと青年たちが考えているものの違いというのがあるのかどうかというところでの若者政策にも繋がってくるものかと思って挙げさせていただいている。なので、アンケート項目については基本全て選択式で考えている。

(委員意見⑦)

「ほっとできる場所はどこか」という項目が17歳のアンケートで出てくるが、ほっとできる場所はどこかと聞かれると、なんとなく自分の家の周辺というふうにしかなれなくて、17歳になると多少行動範囲が広がるかも知れないけれど、17歳の子が公園とかそういうものも想定しているか。逆に言うと、小中学校の子どもがほっとできる場所というので、本当に外遊びと関連付けられるのかというのも疑問である。そこら辺も考慮して選択肢を作っていただくとありがたいと思う。

(市回答⑦)

内容を精査して、答えやすく、また次の政策にも繋がるような形に変更していきたいと思う。

(委員意見⑧)

いいなと思ったことだが、今まで17歳のアンケート項目たたき台に「職場は居心地が良いか」ということを入れていただいていたのが、19歳のアンケートにも「職場は居心地が良いか」ということを入れていただいた。それと、19歳のアンケート項目10番「どのような悩みがあるか」に「対人関係」というところがあるが、対人関係の問題とかで、メンタルの疾患になったりする人が最近非常に多いので、ここをアンケートした結果というのとはとても関心があるなというふうに思っている。これはクロス集計か何かされて、「居心地が良いか」という質問で「対人関係で居心地が悪い」という結果がわかるということか。

(委員意見⑨)

「ほっとできる場所はどこか」というところをどう聞くかというのは難しいなと思っている。ほっとできる場所にインターネットの中とかというのが入るのかどうかというのは、一度考えていただければというふうに思った。

事務局より、6歳児の親アンケート項目（たたき台）について説明

《委員からの意見》

(委員意見①)

「人とのつながり」の項目5「子育てについて誰に相談するのか」の選択肢には、やはりSNSとかも入ってくるのか。やはりここが今増えているというのが他の調査でも出ている。SNSを利用してどうだったかというあたりも知りたいところではある。

(市回答①)

検討させていただく。

(委員意見②)

書いている人が夫か妻かというのをもうちょっとストレートに聞いてもいいのではないかと思っている。「同居している家族」の中の選択肢として、「夫」と「妻」というのがあればクロスできるかもしれないけど、例えば「配偶者」とかと書いてあると分からない。

それから、項目25番「子育てする友人に瀬戸市を勧めるか」は「瀬戸市に転居することを勧めるか」という意味なのか。

(市回答②)

表記方法はこれからも検討させていただきたいと思う。

項目25番「子育てする友人に瀬戸市を勧めるか」については、「瀬戸市に転居することを勧めるか」ということであって、こちらは指標として挙げさせていただいていたものであ

るので、今回も項目として挙げているものである。ただ指標ではあるが、実際問題、子ども若者のための総合計画のアンケートであるので、その優先順位というところを考えたときに、本当に必要なものかどうかは考える必要があると思っている。

(委員意見③)

例えば、明石市が子育てを積極的に進めるということをものすごくPRしていて、実際あそこはそういう世代の流入が増えたという実績があるので、決して無駄な質問とは思わないが、ちょっと言葉足らずかというのと、瀬戸市の何を勧めるのだろうかと思う。

それから、6歳の親を選んだ理由は何なのか。

(市回答③)

ここの聞き方を考える。

6歳児を選んだ理由だが、こちらは平成30年から始まっている。そのときについては、ちょうど新しく子どもが6歳になって学校に上がっていったりと一つの転換期になってくるというところでの判断かと思う。また、愛知県か国の方だったか、6歳児を対象としたアンケート調査もやられていたというところもあって選んでいた。今回もそこでの比較を行うというようなことでやらせていただいている。

(委員意見④)

「6歳児の親」について、6歳といっても小1と年長と混じるが、基本的には年長児の親ということでもいいのか。

(市回答④)

その通りである。

(委員意見⑤)

瀬戸市では1歳児とか3歳児とかの子育て中のお母さんやお父さんたちへのアンケートはされているのか。

(市回答⑤)

健康課というところで、3ヶ月健診や1歳6ヶ月健診、3歳児健診というのをやったときに問診をしている。その中で、子育てについて楽しいかとか、どういったことに苦勞しているかとかそういったことを聞いている。そちらについては健康課の方でそういったデータを活用させていただき、状況を把握できればと考えている。

(市回答⑤)

補足させていただくと、0歳から就学前の子どもについては、子ども子育て支援計画の中で保育の計画を策定する必要があるので、そちらについては保育に主に焦点を当てたものになると思うが、今年度末から来年度の初めにかけてやろうと思っており、また保育部会の中で検討して、こちらの会議の方には結果をご報告させていただきたいと思っている。

(委員意見⑥)

こちら側のアンケートと接続しなければいけないような項目があれば、当然入れていただくというような感じでいいのかと思うが、そのような形でやっていくのか。

(市回答⑥)

当然ながら合うような形でやっていきたいと思っている。

(委員意見⑦)

質問内容が、母親が答える前提の質問のような感じがして、どちらかという母親からの声が聞きたいという内容の質問に見える。今回は母親の心身の負担を考えてのアンケートだとは思っているので、どうしても内容が母親寄りになっているかと思うが、万が一これを夫側が答える場合、回答の調査結果に相違が出てくることがないかというのが少し気になったところだ。

(市回答⑦)

確かにご指摘の通りかと思う。こちらの聞き方については整理をしてやっていきたいと思う。

(委員意見⑧)

項目E「回答者」というのは、何を聞く欄になるのか。

(市回答⑧)

こちらの回答者というところには、実際このアンケートを書いてくださった方の名前と
思っている。

(委員意見⑨)

お父さんなのかお母さんなのかを聞いてないと、名前から判別できないパターンも絶対あって、やはりお父さんが答えているのか、お母さんが答えているのかというところはしっかり聞いていただいた方がいいのかというふうに思った。

あと、例えば項目13番14番の「両親」と書いてあるのは、回答者の方の両親ではないのか。つまり、子どもから見たらおじいちゃんおばあちゃんという意味ではないのか。ただ、

私が答えたときに「両親」と聞かれると、私の親というふうに思ってしまう聞き方だと思う。

あと、6歳児の親アンケートということで、項目21番22番の「放課後クラブ」と「放課後学級」で二つに分かれているが、わからない人はわからない。何が違うのというところとか、ここを分けて聞く意味とか、そこをしっかりと伝えないと、意図した回答が得られないのかと思う。調べる人はしっかり調べているが、このアンケートをするタイミングがいつかによるが、子どもが年長になった早い段階で聞いていたら、そこまでまだ小学校に上がった後の子どものことを調べていないこともある。そういう意味では、丁寧な聞き方をしないといけないのかというふうには感じた。

(市回答⑨)

全てのご指摘、本当に丁寧に書かないといけないということは改めて思っている。特に質問の意図がきちんと回答者の皆様に伝わるような形で表記とか整理をさせていただきたいと思う。

(委員意見⑩)

項目9番の「両親」というのは祖父母のことなのか。

それから、経費が重なることだが、1人の子どもに2通送るといえるのはいかがなのか。

(市回答⑩)

そういったものも含めて丁寧にやっていきたいなと思う。

(委員意見⑪)

項目13番14番の「両親」のところは子どもの親ということで母親父親で、「両親の最終学歴」「両親の就労状況」というのは、配偶者がいれば2人のことについて聞くということか。「両親の最終学歴」の調査理由のところに「少し疑問」と書いてあるが、ここはそのまま引き続き調査していくということによろしいか。

(市回答⑪)

そのように考えている。

(委員意見⑫)

経済的な状況の不安はたくさん聞いているが、ここまで経済的なことを聞く必要があるかどうか。絞れるのであれば、子育ての中で何を負担に思っているのかとか、何を不安に思っているのかとか、小学校を目の前にして親御さんたちが負担に思われるだろうなみたいなことをたくさん列挙しておいて選んでもらうというのは、これから施策を打っていく上で大事かというふうにも思った。

< 3. 報告事項の質疑について >

《委員からの意見》

(委員意見①)

報告事項(1)についてどうなのかと思ったのが、子ども・若者センターの相談状況の「3. 新規児童虐待年齢等別件数」のコメントで、「未就学児よりも小中学校生の方が上回っています」と記載してあるが、0歳から学齢期前だと6歳までなので、そこ小中学校生のところで比較すると、年数で割り戻すと、未就学児の方が割合として多いのではないかというふうに思うがどうか。

(委員意見②)

小中学校のところを取り立てて記述したほうが良いと思われた理由とか、例えば瀬戸市の教育委員会ではスクールソーシャルワーカーの配置もなされていて、そこでの連携がうまくいき始めたのかとか、何かそういうふうな具体的な分析が出ていればよりわかりやすいのではないかと思うし、それがまた様々な多機関連携のところうまくいっているのかどうかみたいなどころが見えていいのかというふうに思ったので、ここはぜひまたご検討いただいて、次にご報告いただければというふうに思う。

(委員意見③)

小学校5年生の保護者の方たちには放課後児童クラブを利用したか、しなかったか、できなかったときはその理由を聞いていただくと、放課後児童クラブをもっと有効に利用できるように仕組みにしていけるのかという気がした。

(市回答③)

今いただいたご意見については一度こちらの方でも検討させていただければと思っています。

< 4. その他報告 >

委員より、自然体験活動ガイドブックについて説明

《委員からの意見》

(委員意見①)

午前中、子ども若者会議をやっていたが、本当にこの体験が少ないというところが話題に

なり、そういうことで生きづらさも増していくし、自分を回復させていく力もなかなかつかないというところの課題を多くの支援者の皆さんが語っていたところだ。

会議終了